

定例研究会での配付資料（研究会の様子はICレコーダーで録音し、電子ファイルの形で保存しております）や今後の研究会の開催予定等につきましては、研究会事務担当の北崎浩嗣（099-285-7592）もしくは山本一哉（099-285-7595）までお問い合わせ下さい。

## ○執筆者紹介

①生年・出身地、②所属、③専門領域、④研究業績、⑤奄美と関係した活動の順番で掲載しております。

### ■皆村 武一（みなむら たけいち）

- ①1945年・鹿児島県 沖永良部島
- ②法文学部経済情報学科国際協力講座
- ③イタリアおよび日本経済の比較研究、伝統社会の研究、奄美経済の研究
- ④著書  
『奄美近代経済社会論』（晃洋書房、1988年）  
『戦後日本の形成と発展』（日本経済評論社、1995年）  
『戦後奄美経済社会論』（日本経済評論社、2003年）

### ■朴 源（パク ウォン）Won Park

- ①1964年・韓国
- ②法文学部経済情報学科地域計画講座
- ③財政学
- ④「開発財政をめぐる国と地方」『鹿児島における開発政策と地方財政』（鹿児島県地方自治研究所、2001年）、  
「地方消費税：回顧と展望」『自治研かごしま』No.79（鹿児島県地方自治研究所、2003年）、「付加価値税に

おける利子の取扱い」『経済学研究』（九州大学経済学会、2003年）

### ■津田 勝男（つだ かつお）

- ①1957年・長崎県
- ②鹿児島大学農学部生物生産学科病害虫制御学講座助教授
- ③害虫学、昆虫病理学
- ④『チャバネアオカメムシから分離されたウイルス様病原体の性状』日本応用動物昆虫学会誌、1997年  
『人工飼料によるコブノメイガの飼育』日本応用動物昆虫学会誌、2000年

『The biogeography of the insect fauna of the Ulithi islands, Micronesia』 Kagoshima University

Research Center for the Pacific Islands Occasional Papers No.39, 2003年

- ⑤アリモドキゾウムシ人工飼料開発研究会で鹿児島県と共同研究を実施中

### ■前利 潔（まえとし きよし）

- ①1960年・沖永良部島知名町
- ②知名町役場
- ③奄美経済史、奄美論
- ④「奄美自立への試論」（共著『滅びゆく鹿児島』1995年）、  
「無国籍の奄美」（『論座』2003年8月号）  
「奄美と沖縄、ヤポネシア論の受容の仕方」（共著『地域と出版～南方新社の十年を巡って～』2004年）
- ⑤沖永良部郷土研究会会員、日本島嶼学会会員

### ■花井 恒三（はない こうぞう）

- ①1947年

②奄美群島広域事務組合・奄美群島観光連盟, (財) 奄美  
広域中小企業勤労者福祉サービスセンター各事務局長

⑤<http://www.amami.or.jp> (広域行政),

<http://www.minc.ne.jp/amami/> (奄美群島観光連盟・奄  
美群島体験交流観光プログラム・奄美群島特産品カタ  
ログ),

<http://www.15.synapse/ne/jp/amamifukki/> (奄美群島日  
本復帰50周年)

TEL 0997(52)6032

FAX 0997(52)9618

## ○編集後記

■ 表紙の写真は、左からアヤマル岬、金作原原生林、笠利崎灯台です。Stephen Cother先生（法文学部）よりご提供いただきました。ありがとうございました。また、Cother先生のご助力のもと、裏表紙レイアウトをリニューアルいたしました。仕上がりはいかがでしょう。読者の皆様に気に入っていただければ幸いです。さらに、Cother先生には、先月号より、裏表紙の英文目次へのネイティブチェックもお願いしております。

このように、プロジェクトメンバー以外の方々からも様々な面でご協力いただきながら、本誌の刊行は続いております。今後もレイアウトや文字の見やすさ等に気を配り、全体的に完成度の高い冊子を目指していきたいと思っております。（I）

### 第2回シンポジウムは沖永良部・和泊町で

本年1月31日に開催された公開シンポジウム「新しい奄美世界の創出」は、予想以上の盛会となり、秋にはシンポジウムの記録をまとめた本の出版も予定されています。第2回目のシンポジウムも、奄美群島で開催する方針でプロジェクト研究を進めていますが、開催地を沖永良部島の和泊町とすることに決定し、和泊町役場をはじめとして現地の方々との最初の打ち合わせを行いました。開催時期は11月後半を予定しており、取り上げるテーマについては、農業、自立のための新しい産業、歴史と文化、などの領域について、現地の方々からのご意見なども踏まえながら、これから明確にしていく予定です。9月には、具体的な日時、会場、テーマや講師についてお知らせできるよう、事務局を中心に準備作業を進めます。第1回目のシンポジウム同様、多くの方に関心を持っていただける企画を練っていきたいと思います。

（本プロジェクト事務局長 平井一臣）

研究責任者 山田 誠

奄美ニューズレター

発行 鹿児島大学

編集責任者 萩野 誠

AMAMI News Letter

印刷 南日本共同印刷株式会社